

四 人物・文化交流

四三四

- 1 太平洋問題調査会関係.....四三四
- 2 視察団訪日関係.....四九八

 - (1) 米国新聞記者訪日関係.....四九八
 - (2) 加美業家訪日関係.....五〇六
 - (3) 英国經濟使節団訪日関係.....五三三

- 3 日米文化交流関係.....五三八
 - (1) 人形使節交換関係.....五三八
 - (2) 帝都復興答礼使関係.....五六六
 - (3) 野球団訪日関係.....五六六
- 4 その他(英國美術家東京展関係、ローマ日本画展関係、パリ薩摩会館建設関係).....五七一

日本外交文書 昭和期I第一部第四巻 日付索引

一 日英・日米外交關係

1 昭和2年3月5日 出淵(勝次)外務次官 在本邦英國大使館 会談
ピーターソン一等書記官

最近の日英関係並びに中国問題等に関する出淵

次官とピーターソン在本邦英國大使館書記官と

の会談

* 日英関係ニ関シ出淵次官ト英國大使館一等書記官

「ピーターソン」ト会談ノ件

「ピ」氏ハ「バルフォア」卿ノ秘書トシテ現駐支公使「ランプソン」ト共ニ華盛頓會議ノ際日本全権側ト知り合トナ

リ最近二年間東京ニ在勤シ英國大使館ニ於テハ日本語書記官ヲ除ク外最古參者ナルカ今回帰朝ヲ命セラレ他ニ転勤スルコトトナリ予テヨリノ約束ニヨリ腹藏ナキ感想ヲ聴クノ

目的ヲ以テ三月五日特ニ出淵次官ヲ來訪セル次第ナリ
昭和二年三月五日「ピ」氏暇乞ノ為出淵次官ヲ來訪シ腹藏

ナキ所見ヲ承リ度シト述ヘタルニ付次官ヨリ

自分ハ華府會議以来君ヲ知リ居リ最近ニケ年ノ東京在勤中

當時日本國民ハ英國ノ發議ニ依リ日英同盟ノ葬ラレタル
コトニ対シ或種ノ感想ヲ与ヘシメラレ爾來日本人ノ英國
ニ対スル感想ハ同盟存立ノ時ニ比シ幾分変更ヲ來シタル
コト固ヨリ疑ヲ差挿ム余地無シ乍去日英同盟ナルモノハ
如何ニ既往ニ於テ日本ノ立場ヲ擁護スルニ力アリタリヤ
ヲ考フルニ當リ同盟ノ存続セサル今日ニ於テモ日本人ノ
英國人ニ対スル感想自ラ他ノ國民ニ比シ特異ナルモノア

ルコト是亦疑ヲ容レス殊ニ中年以上ノ日本人ノ脳裡ニハ
日英同盟ニ対スル追憶ノ念從テ英國ニ対スル或温カキ感
情ニ於テ相当強キモノアリ一言ニシテ之ヲ述フレハ今日
ハ既ニ日英同盟ナルモノ存在セサルモ尚日本國ニハ日英
間ノ特殊ノ感情ヲ抱ク者尠カラス現ニ昨年以來支那問題
ヲ中心トシテ英國ニ対スル我國ノ輿論稍々不良トナリタ
ルニ当リ一部有識者ノ間ニハ英國トノ國交関係ヲ冷却セ
シムルニ至ラスヤトノ懸念ヲ抱キ屢々我々當局ニ対シ夫
レトナク注意シ來レル向キモ無之ニ非ス

又皇室ニ於テハ秩父宮殿下ニ対スル英國皇室ノ好遇ニ対
シ深ク感謝シ居ラレ殿下御自身ニ於テモ頗ル英國ヲ御気
ニ召シタル模様ニテ同盟ノ亡ヒタル今日ニ於テモ日英ノ
国交ニハ多年ノ同盟關係ヲ連想スル或種ノ溫味アリ此ノ
溫味ハ兩國政治家ノ覺悟如何ニ依テハ永ク之ヲ保存シ且
其ノ熱度ヲ高ムルコトヲ得ヘシト確信ス英國政府トシテ
ハ此日本ノ上下ニ浸ミ居ル対英好感ノ存在ヲ認メ之ヲ保
存スルコトヲ努ムルノ必要アルヘシ君ハ華盛頓ニ於テ極
東關係事項ヲ親シク掌裡シ尚最近二年間日本ニ在勤シテ
日本朝野ノ対英感想如何ヲ親シク體驗セラレタルコトナ
事実ナリ

以上二問題ノ外ニ最近ノ出兵問題ノ如キモ日本ノ輿論ヲ
刺戟シタルモ幣原大臣ノ議會ニ於ケル答弁其他我々外務
當局カ新聞記者ニ接觸スル機會ニ於テ説明シタルコト等
ニ因リ追々緩和セラレ現ニ東京ニ於ケル「タイムズ」通

至リタルモ此内情追々新聞ニ洩ルルニ至リタル為メ單ニ
支那ノ國論カ英國ニ対シ不利益ニ展開シタルノミナラス
日本ノ國論モ英國ノ非ヲ鳴ラシ恰モ英國ハ自國軍人ノ手
ニテ支那ノ主ナル鉄道ヲ管理セムトスルモノニ非スヤト
ノ感想ヲ与フルニ至リタリ

第二ノ英國覺書ナルモノハ昨年十二月十八日突如北京ニ
於テ關係國代表者ニ配布セラレ其後二十四日ニ至リ「テ
イリー」大使ヨリ當時大臣不在ノ為小生ニ手交セラレ而
モ其ノ翌日ヲ以テ新聞社ニ交付セラレタル為日本ノ輿論
ハ英國ノ仕打チヲ以テ甚々不都合ナルモノトシ盛ニ攻擊
スルニ至リタルハ君ノ熟知セラル通リナリ

當時先帝陛下崩御ノ為新聞紙ノ多クハ右覺書ニ付論議ス
ル追少カリシ為対英反感ヲ誘發スル程度割合ニ少カリシ
モ兎ニ角日本一般ノ感情ヲ害シタルコト蔽フヘカラサル
事実ナリ

(二) 英國ニ対スル日本輿論ノ反動 次官ヨリ最近數年間ニ
於ケル對支關係ニ於テ英國ノ遣口カ日本ノ輿論ニ反動ヲ
与ヘタルコト尠カラサルカ自分ノ記憶スル所ニテハ顯著
ナル二箇ノ事例ヲ挙クルコトヲ得

一ハ臨城事件ニ関連スル支那鐵道警備案
一ハ昨年十二月ノ英國ノ覺書ナリ

大正十二年臨城事件ニ關連シテ支那ノ主ナル鐵道ヲ外國
軍人ヲシテ警備セシムヘシトノ案英國側ヨリ提議セラレ
外交團ニ於テ一致シテ之ニ同意スルニ至リタルモ日本獨
り之ニ反対シ遂ニ同案ヲ不成立ニ終ラシメタルコトアリ
同案ハ「メーヤアス」等鐵道利權關係者ノ發議ニテ遂ニ
英國公使ヲ動カシテ公然外交團ニ提議セシムルニ至ラシ
メタルモノナルカ案ノ骨子ハ外交團ノ同意ヲ条件トシテ
警備案ヲ定メ警備機関ノ首腦者ヲ支那人トスルト共ニ別
ニ副首腦者ニ外國軍人ヲ入ルルコトニ在リ明カニ華盛頓
條約ト矛盾スルモノナルヲ以テ獨力乍ラ日本人丈ニテ敢
然トシテ之ニ反対シタル次第ナリ幸ニシテ同案不成立ニ

信員ノ如キモ近着ノ「タイムズ」紙ニ依レハ対英感情ノ
緩和ヲ報道シ居ル位ナリト語リタルニ「ピ」氏ハ鐵道警
備問題ニ就テハ何等答フル所無カリシモ英國覺書発表已
ムヲ得サリシ事情ニ付テハ頻リニ弁解シ若モ日本政府當
局ニ於テ一定ノ対支方針ヲ示シテ英國ト腹蔵ナク所見ヲ
交換セラレタルニ於テハ右覺書ノ發表ノ如キハ恐ラクハ
起ラサリシナラムト語リタルニ付次官ヨリ貴國外務大臣
ハ屢々支那問題ニ就キ松井大使ノ意見ヲ求メラレタルニ
當リ大使ヨリ余リ詳シキ所見ヲ述ヘラセリシ事ハ事實
ナルモ同時ニ東京ニ在ル「ティリー」大使ヨリ別段外務
大臣ニ向テ意見ヲ求メラレタルコト無カリシト記憶ス
支那問題ニ就テ倫敦政府ニ於テ充分報道ヲ有シ居ラルヘ
キハ素ヨリ小生ノ確信スル所ニシテ又我松井大使モ常ニ
相當ノ報道ヲ供給セラレ居ルモ倫敦ニ於テ支那問題ニ就
キ充分ナル意見ノ交換ヲ為スコト地理的關係上到底困難
ナルヘシ貴國政府ニシテ支那問題ニ關シ日本政府ノ方針
ヲ知ラレムコトヲ欲スルニ於テハ貴國大使ヲ通シテ之ヲ
東京ニ於テ行ハルニ於テハ必ス充分ナル結果ヲ得ラル
ヘシト確信ス

今後重要ナル問題起りタル際「ティリリー」大使ニ於テ幣原大臣ノ意見ヲ叩カルルニ於テハ必ス審ラカニ帝国政府ノ方針ヲ知ラルコトヲ得ヘク其報道ト「ランプソン」ノ報道トヲ比較考究セラルコトニ依リ貴国政府ニ於テ必ス從来以上ノ結果ヲ得ラルヘシト信ス

自分ハ嘗テ江浙戦争ノ際「エリオット」大使殆ト連日幣原大臣ヲ訪問シ又米國代理大使モ頻々來訪セラレ支那問題ニ関スル三国間ノ意見交換極メテ良ク行ハレタルコトヲ追懷シ此上トモ東京ニ於ケル支那問題ニ関スル日英両国ノ意見交換ニ重キヲ置カムトスルモノナリト語レリ

(三) 質金問題ト無担保借款問題

次官ヨリ先般支那閩税会議ノ際不幸ニシテ日英両国代表者ノ間ニ若干ノ点ニ付意見ノ相違ヲ來シタルハ甚タ遺憾トスル所ニシテ會議遂ニ

中止ノ運命ニ遭遇シタルコトモ畢竟スルニ日英両国代表者間ニ往々ニシテ意見ノ相違ヲ示シタルコト其重大ナル理由ノ一ト思考ス

閩税會議ニ付所見ヲ述フルニ先チ淡泊ニ一言シ置キ度キコトアリゾハ外ナラス

其後得タル報道ニ依レハ日本カ閩税會議ノ劈頭ニ於テ自

キハ実際的ナラスト思考ス又英國側ニ於テハ無担保借款整理ヲ以テ不必要且有害ナルカ如ク認メ居ラルカ如キモ支那ノ財的信用ヲ恢復スル為ニハ無担保借款ノ整理絶対ニ必要ト認ム

英國側ノ一部ニテハ西原借款ヲ以テ不都合ナル借款ノ如ク認メ居ルカ如キモ袁世凱ニ対シテ与ヘタル二億五千万円ノ五国借款モ段祺瑞ニ対シテ与ヘタル一億円ノ借款モ其性質ニ於テハ別段異ル所ナシ只五国借款ノ場合ニハ元利償却ノ確実ヲ期スル為ニ特ニ塩稅徵收機關ヲ設ケ塩稅ヲ担保トナシタルモ西原借款ノ場合ニハ特ニ一定ノ担保ヲ設定セサリシコト相異シ居ルノミナリ

債權ナルモノハ元來担保ノ有無ニ因テ其ノ輕重ヲ論議シ得ヘキモノニ非ス其ノ辺ノ議論ハ暫ク別問題トシテ実ハ当初年額八千万円位ト予想セラレタル塩稅收入モ其後支那内乱ノ結果著シク減少シ近年ニ於テハ僅ニ一年一、二千万円ノ収入ヲ見ルニ過キス從テ五国借款モ今年中ハ如何ヤラ利払ヲ実行シ居ル模様ナルモ来年ニ至ツテハ恐ラク西原借款同様無担保借款ノ部類ニ編入セラルヘシ英國ハ五国借款ノ中当然引受クヘキ五分ノ一ノ外別ニ日本ノ

主權ニ闕シ声明シタルコトハ英國政府ニ異様ノ感ヲ与ヘ恰モ日本カ支那ノ歓心ヲ買ハムカ為ニ抜駆功名ヲ為サムトルノ趣旨ニ出テタルモノト認メ居ル向キモアル模様ナルカ當時ノ真相ヲ告クレハ實ハ日置全權ノ演説ナルモノハ同全權ニ於テ当初政府ト打合セヲ為シアリタル事柄ニ其自己ノ意見ヲ加味シ曰ハハ少シク砂糖ヲ加味シ過キタル結果ニシテ当初ノ案ニハ相当苦味多カリシコトハ君ニ於テ記憶シ置カレムコトヲ希望ス既ニ故人トナリタル日置全權ノ演説ニ対シ仮令友人間ノ談話トルモ批評ヲ加フルコト如何カトハ思考スルモ免ニ角事実ノ真相ハ右ノ通りニシテ其結果外務大臣ヨリ日置大使ノ注意ヲ喚起シタル事實アリト内話シタルニ右ニ対シ「ピ」氏ハ相当興味ヲ感シタルカ如キ様子ヲ示シタリ

次テ次官ヨリ両代表間ノ意見一致ヲ見サリシ事項中ニ釐金撤廃問題ト無担保借款問題トヲ挙クルコトヲ得ヘシ釐金撤廃ニ闕シテハ英國政府ニ於テ之ヲ可能ナリト認メ居ラルルカ如キモ日本政府ノ觀ル所ヲ以テセハ支那ノ混沌タル國狀ニ照シ釐金撤廃ノ如キハ到底問題トナラサルヘク從テ右撤廃ノ準備トシテ予メ資金ヲ蓄積シ置クカ如

(四) 租借地問題ト九龍格納庫問題

次官ヨリ支那ニ於テ專管居留地還付取戻熱高マリ居リ英國ノ如キハ既ニ漢口及

九江ニ於ケル專管居留地ヲ或形式ノ下ニ支那ニ還付スルコトトナリタルニ顧ミ将来ニ於テ租借地取戻問題必ス擡頭スルニ至ルヘシ君モ記憶セラルルナランカ華盛頓會議ノ際仏國全權「サロー」ハ華盛頓ニ到着スル以前ニ新聞記者ニ対シ各國ニシテ租借地ヲ還付スルニ於テハ仏國モ廣州湾ヲ還付スルニ異存ナキ旨ヲ言明シ相當世人ノ注意ヲ喚起シタルコトアリ租借地還付問題ハ華府會議ニ於テ何等具体化スルニ至ラサリシモ右仏國全權ノ「ステート

日大使「ワーレン」氏夫妻及同市選出下院議員「クランシ

ー」氏其他ノ出迎ヲ受ケ「ク」氏等ニ於テ予定ノ「プログ

ラム」ニ從ヒ市庁ヘノ訪問ヲ為セル際ニハ同地「セルフリ

ッヂ」飛行場「ランフィア」少佐ノ引率セル飛行隊ハ特ニ

テ各自動車工場ヲ參觀シ正午「デトロイト」俱樂部ニ於テ

「ハドソン」自動車会社社長「チェビン」氏主催ノ大使歎

迎午餐会アリ主ナル自動車会社社長等十数名ノ出席アリ翌

二十九日「ミシガン」大学講演終了後「デトロイト」市ニ

引返シ大使夫妻ハ「グロースポイント」「ワーレン」氏邸ノ

賓客トナラレ同夜同邸ニ於テ大使夫妻ノ為盛大ナル宴会ア

リ出席ノ陪賓三十名「ワーレン」氏ハ恰モ天長節当日ニ相

当セルヲ知リ一同ノ起立ヲ求メ聖寿ヲ寿キ奉レリ翌三十日

正午「スタットラー・ホテル」ニ於テ「ミシガン」大学同

窓会及大学俱楽部主催ノ歓迎午餐会アリ席上何レモ日米親

善ヲ高調セル挨拶アリタリ

大使今回ノ行ニ関シ同地新聞紙何レモ重要記事トシテ報道

ヲ怠ラス惟フニ此行同地方人士ニ対シ日米国交ニ関シ良好

ナル印象ヲ与ヘタルヲ疑ハス

(隨行田村記)

編注 新聞記事省略

3 昭和2年5月6日 在英國松井慶四郎大使 在中國芳澤(謙吉)公使宛(電報)

日英協調關係増進に關する英國チエンバレン

外相の意向について

* 本省 5月6日 発

合第一四八号

往電合第一四五号ニ閲シ

五日在本邦英國大使出淵次官ヲ來訪シ右往電日英同盟ニ閲

スル本大臣ノ内話ヲ本国政府ニ電報シタル處同国外相ハ之ヲ閲議ニ披露シタル趣ヲ以テ左ノ趣旨ヲ個人的伝言トシテ

本大臣ニ伝達方訓令ニ接シタリト述ヘタリ

「貴官ハ日本外相ニ対シ英國政府カ同外相ノ懇切ナル言葉ヲ感謝シ且全然同様ノ趣旨ノ言ヲ同外相ニ呈スルモノナル旨ヲ述ヘラレ度シ同外相ノ言ハ正シク日英関係ニ就テノ英

國ノ感情及希望ヲ表明スルモノナリ英國政府ハ日英同盟ノ存続セル永キ期間ニ亘リ結成セル両國ノ緊密關係ヲ忘レタ

ルコトナキノミナラス今後モ右同盟ニ依リ表象セラレ強固

トナリタル友誼ヲ益々扶擁セムトス」

編注 五月三日付田中外相・ティリー駐日英國大使との会

談については、『日本外交文書(昭和期I第一部第一卷)』第七一六文書参照。

4 昭和2年6月2日 在英國松井大使より
田中外務大臣宛(電報)

日英同盟復活並びに中國問題等に関する英國
外相との会談要領

ロンドン 6月2日発
本省 6月3日着

* 第一八二号

別電第一号及ヒ第二号ノ次第就中杉村ニ於テ日英共同ハ日本側ヨリ之ヲ希望シ居ルモノト英國側ニテ解シ居レルカ如キ印象ヲ得タリトノ事モアリ尚外相ハ最近英露断交問題、連盟關係会合等ニテ多忙ナリシ為 Whitsun ハ機トシテ一、三週日中ニ一ヶ月位ノ休暇ヲ取ルラシキニ依リ本二日会見シ支那問題ヲ切り出シタル処田中新首相ノ考ハ良ク解リ大感謝シ居ル次第ニシテ從テ「チレー」大使ニハ總テ腹協力

ナク話合スル様打電シ置キタリト述ヘタル上「ラムブソン」ハ目下上海ニ赴キ蔣介石側ノ有力者ト話合ヒ中ナルカラニ角南京事件ニ付テハ处罚、謝罪及賠償ノ原則ハ如何ニシテモ認メシメサルヘカラス尤モ賠償ノ額等ハ後日共同委員会ニテ決定スルコトトスルモ差支ナシ但シ實際ニ此ノ事件カ片付クヘシトハ今日期待シ居ラスト云ヒ更ニ右話合ノ顛末ハ一切在上海日本總領事ニ通スルト共ニ「チレー」ヨリモ日本政府ニ話ス様命シアリト説明シ支那ノ戰況ニ付田中男カ腹藏ナク話サレタルコト感謝ニ堪ヘサル處ナル旨付言セリ本使ハ公報ニハ接セサルモ支那ノ事態ハ同男ノ観測通り動クカ如シト述ヘタルニ全ク其ノ通りナリト答ヘタリ茲ニ於テ本使ハ実ハ當國ノ人士中日英同盟ハ今日行ハサル迄モ相互ニ了解ヲ遂クルコト必要ナリト説クモノ折々アリ之ニ対シテハ本使ニ於テ同盟ハ最早過キ去リ了解ハ素ヨリ望マシキコトナルモ今日米国ヲ抜キニシテ両國限ニテ話合スルコトハ實際行ハルルヤ疑ハシ日英カ支那ニ最大ノ實質的利害ヲ有スルハ事實ナルモ米国ヲ度外視スルハ困難ナルヘント述ヘ居ル次第ナリト告ケタルニ外相ハ之ヲ首肯スルト共ニ米国ハ日英ニ引摺ラルルコトハ好マサルモ日英協力

シテ米国ニ説キ同國モ一緒ニナリテ協力スル様仕向クレハ必シモ不可能ニアラサルヘシ同盟ハ最早行ハレサルノミナラス仮令何等カノ協商ヲ文書ニ作成スルモ精神之ニ伴ハサレハ無用ナリ自分ハ先ツ心持ヲ作クルコトニ重キヲ置クモノナリト答ヘ

尚仏國ハ支那ニハ僅カノ利害ヲ有スルニ過キサルモ「ブリアン」過日來英ノ際支那ニ対シ列國協同ニテ一ノ政策ヲ声

明シテハ如何ト提議シタルモ自分ハスル声明ヨリモ各國ノ間ニ良ク諒解ヲ遂ケ問題ノ解決ヲ計ルコト最上ノ策ナル旨

応酬シ置タル次第ナリト云ヘリ本使モ之ニ応シテ精神ノ最

モ大切ナル所以ヲ説クト共ニ初メヨリ余リ大ナルコトヲ望

マス徐々ニ進ミ行クコト当然ナルヘシト述ヘタルニ外相ハ

同意ヲ表シ免ニ角日本新政府ノ心持ヲ了解シ大ニ遣リ良ク

ナレリト結ヘリ序テ本使ハ英國ハ北京ヲ引揚ケ米國モ亦然

ラントノ説アリシカ如何ト尋ネタルニ外相ハ自分トシテハ再ヒ義和團事変ノ如ク公使館ヲ包囲サルヲ好マサルカ右ハ現場ニアルモノノ判断ニ任スコトトシ不取敢一大隊ヲ送リ更ニ必要ニ応シ一大隊ヲ出シ得ル様手配セリト答ヘ尚日

本ノ出兵ニ閑スル決定ニ付テハ大ニ感謝シ居ル決第二シテ

英國トシテハ日本ノ決定ニ従ヒ行動スルヲ賢明トスヘク旁差当リ北京撤退ノ意ナク唯安全ノ方法トシテ婦人子供ヲ天津其他ニ避難セシムルコト必要トナルヤモ知レサルモ之等ノコトハ「ラムズソン」ノ判断ニ任シアリト云ヒ何レニセヨ北京カ攻メラルコトハ万ナカルヘシトノコトニテ安心ノ体ヲ示シ居タリ

5 昭和2年6月2日 在英國松井大使より
田中外務大臣宛(電報)

日英親善關係の進展に関する英国外相の希望

表明

ロンドン 6月2日前発
本省 6月3日後着

第一八三号

五月十六日本使「バッキンガム」宮殿ニ於ケル皇帝ノ仏國大統領歓迎会ニ列席シタル際「ソウルズベリー」卿ハ支那ノ事態ヲ大ニ憂慮シ日英同盟ノ消滅ヲ悔ユルカ如キ口吻ヲ洩シ居タルカ外相モ亦本使ニ向ヒ日英親善ニ閑スル貴大臣及英國大使ノ会話ニ対シ非常ニ満足ノ意ヲ表シ支那問題ニ

付何トカシテ日英間ニ了解ヲ遂ケタキ希望ヲ有スル旨内話

セリ右ハ甚夕結構ナル話ナルモ之カ成立ノ為ニハ細心ノ注

意ト慎重ノ考慮ト要シ且藉スニ相当ノ時日ヲ以テスヘキ

ノミナラス両國ノ國論カ之ヲ「バック」スル程ニ熟シ居レ

リヤヲモ考慮セサルヘカラサルカ上ニ愈々話ヲ進ムルトス

ルモ他國ノ嫉妬ヲ招カサル様最善ノ工夫ヲナスコト極メテ

肝要ナリト述ヘタルニ外相ハ之ヲ首肯スルト共ニ少クトモ

田中首相ノ心持ハ自分ニハヨク了解サルル処ニシテ今後支

那問題ニ閑シテハ出来得ル限り頻繁ニ意見ノ交換ヲナシタ

シト言ヘリ本件ニ閑シテハ貴電合第一四五号ノ三ノ次第ア

ルモ本使ニ於テハ未タ充分明確ニ政府ノ意向ヲ承知シ居ラ

サルニ付右ノ如ク多少ノ留保ヲ付シテ挨拶シ置キタル次第ナリ

* 第一八四号

往電第一八二号ニ閑シ

五月三十一日外相ノ催シタル宴会ノ席上「チエンバレン」

ハ杉村ニ対シ勤務上ノ参考トシテ日英關係ニ付打明ケタル

感想ト希望トヲ述ヘ度シトテ左ノ趣旨ヲ語レル趣ナリ

先年外相就任當時特ニ日米両國ニ対スル關係ヲ重要視シ日

米両大使ノ為長時間ヲ割キ会見シ林男ニ日英親善關係増進

ノ要ヲ縷説シタル事アリシカ其後支那問題起ルニ及ヒ日本

ノ英國ニ対スル遣口ハ淡泊ニ申サハ殆ト要領ヲ得ス米國政

府ヲシテ如何ニセハ日本ト協力シ得ルカヲ知ルニ苦シマンシ

メタル次第ナリシカ現内閣トナリ能ク日英協力ノ必要ヲ理

解セラレ茲ニ日本政府ノ対英態度一変シ種々協力ノ誠意ヲ

表示セラルハ欣幸ニ堪エサル所ナリ就テハ連盟ニ於テ將

来各般ノ政治問題ヲ處理スルニ方リテモ田中男ノ指示セラ

レタル日英共同ノ精神ヲ以テ指針トセラレ度独リ支那問題ノミナラス世界各方面ノ國際問題ヲ解決スルニ方リ日英カ

結束ヲ固ウスルニ於テハ必ス良好ナル結果ヲ収メ得ヘシ

日英協力を必要とする英国外相談話

6 昭和2年6月2日 在英國松井大使より
田中外務大臣宛(電報)

本省 6月2日後発

モ同盟ヲ結フ事能ハサルモ親日親米ノ政策ハ国際連盟支持ノ政策ト共ニ英国外交ノ三大指針ナル旨力説シタル事アリ前記「チ」ノ談話ハ「ド」トノ間ニ何等カ打合セタル上行ハレタルカ如ク閣下ノ日英共同論ヲ以テ帝国政府ノ外交方針ニ根本的変更アリタルカニ見做シ居ルヤニ印象セラレタル由ナリ

7 昭和2年6月9日 在英國松井大使より
田中外務大臣宛(電報)

日英提携を希望する英國世論

ロンドン 6月9日前發
本 省 6月10日前着

*
第一八九号

最近弗々日英提携論ノ擡頭シ来レル次第ハ屢次ノ拙電及報告ニ依リ御承知ノ通ナル処右ハ直接ニハ支那問題ニ関シ何等日英間ノ諒解ニ依リ当面ノ難局ヲ切抜ケントスルニアルハ想像ニ難カラサル所ナルカ翻テ英國ノ現状ヲ見ルニ

(一)内政方面ニ於テ昨春ノ総同盟罷業以来政府ハ諸種ノ難問ニ当面シ殊ニ労働組合法ノ改正及婦人選挙権ノ拡張等ニ

対シテハ与党内ニ於テモ異論ヲ唱フル者鮮カラス就中財政ハ輓近殊ニ困難ニ陥リ政府ハ年々財源ノ捻出ニ苦慮シ之カ対策トシテ社交税商品自動車税等ノ新税ヲ初メ道路基金ノ一般歳入編入等ヲ案出シタルカ議会ニ於テモ已ムヲ得サル処置トシテ之ヲ容認シ又容認スヘキ形勢ニアルモ而モ国民カ必シモ之ヲ歓迎シ居ルモノト云フ可カラス一方支那ニ対スル出兵ハ巨額ノ経費ヲ要シ此困難ヲ彌カ上ニ増加スル等旁々政府ニ取り面白カラサル空気ノ漸ク発生シ来ラントスルモノアリ

(二)政府部内ノ個人的関係ヲ考フルニ先ツ「ボルドウイン」ノ健康カ次ノ総選挙(一九二九)迄首相ノ重職ニ堪ヘ得

ルヤ疑問ナル一方閣員中ニハ「チャーチル」ノ如キ政治的野心ヲ有シ何等機会ヲ窺ヒ居レリト伝ヘラルモノアルト共ニ「チエンバレン」ノ如キ一時ハ「ロカルノ」条約ニテ名声ヲ博シタルモ同條約ハ宣伝セラレタル程ニ効果ナク而シテ支那問題ニ付テハ種々画策スル所アリシモ兎角的ヲ外ルル為自己ノ政治的立場ヲ考量シ何トカシテ本問題ノ解決ヲ計ラント焦慮スルアリ加之

(三)由來英國ハ其ノ植民地ヲ率ヒテ世界ノ大問題ニ当面シ來

リタル処近来自治領ノ国際的地位ノ向上ト共ニ英本国ハ今ヤ事實上自治領ヲ「ドミニエート」スルノ力ヲ失ヒ外交問題ニ付テモ一々自治領ト協議シ其ノ同意ヲ得タル上ニ非サレハ殆ト何事ヲモ為シ得サルニ至レリ從テ此ノ際支那ニ於ケル排英運動カ終息セストテ從前ノ如ク思ヒ切りタル处置ニ出ツルコトハ容易ノコトニ非ス飽ク迄モ之ヲ避ケ成ルヘク外交手段ニ依リ解決ヲ計ルノ必要アリ將又

最モ近似セル日本ト提携シ以テ此ノ難局ヲ打開セント希望スルニ至リタルモノト認メラル

以上ハ英國側ニ於テ日英提携ヲ希望スル事情ニ関シ本使ノ観測ナルカ何等御参考ト成ルヘキカト思ヒ心付キノ儘申進ス

(四)外交方面ヨリ見ルモ「ロカルノ」条約ニ拘ハラス歐州ニハ各方面共不安ノ念未タ去ラス露國トハ断交トナリ日英

同盟ヲ犠牲トシテ贏得ントシタル米國ノ好意乃至協力ハ期待ニ反シ之ヲ得ル能ハサル始末ナリ斯ノ如ク英國現下ノ政情ハ内外共ニ相當不安ヲ抱カシムルモノアリ殊ニ印

度ノ安全ニ対シテハ最大ノ注意ヲ払ヒ苟モ之カ魯威トナルヘキ事態ノ存在ハ英國トシテ全力ヲ尽シテ之ヲ除去スルノ要アリ現下埃及軍統制ニ関スル問題ノ如キ英國ノ立

場ヲ明カニ表明スルモノナリ從テ最近支那ニ於テ失墜セル英國ノ面目ヲ救ヒ停頓セル英國ノ通商ヲ恢復セムコトハ素ヨリ其ノ望ム处ナルモ之ヲノミ目的トシテ其ノ全力ヲ尽スコトヲ得サルヲ以テ此ノ際支那ニ於テ利害關係ノ

公第三五九号
8 昭和2年7月25日 在英國松井大使より
田中外務大臣宛
特命全權大使男爵 松井 慶四郎
外務大臣男爵 田中 義一殿
日英同盟復活説ニ関スル件
七月二十一日ノ「タイムズ」紙ハ「海軍軍備制限ニ関シ日英兩國間ニ了解ノ成立セルコトニ関連シ壽府ニ於テハ旧同盟國間ニ或ル意味ノ親睦新ニ成レリト看做サレ海軍軍備制

限会議失敗ノ場合ニ於ケル旧関係復活ノ可能性論議セラレ居レルカ若シ米国ノ命ニ依リ廃止セラレタル同盟ノ復活アランカ右ハ将来永ク太平洋ノ海軍政策ニ影響ヲ及スヘシト認メラル」トノ寿府特派員ノ通信ヲ掲載シタルカ（別添新聞切抜甲号^{（省略）}参照）

右ニ関シ「スチード」（Wickham Steed 「タイムズ」紙ノ記者トシテ命名アリ一九一四—一九年ニ於テハ同紙外交部編輯長一九一九年二月ヨリ一九二二年十一月ニ於テハ同紙主筆タリ一九二三年以来「レビュイユ・オブ・レビュイユ」誌ノ持主兼主筆ナリ）ハ米国ノ要求ニ依リ日英同盟ハ廃棄セラレタリトスル見解ヲ非トシ左記要旨ノ投書ヲ「タイムズ」紙ニ為セリ（七月二十二日「タイムズ」所載別添新聞切抜乙号^{（省略）}参照）

貴紙在寿府特派員ハ「米国ノ命ニ依リ廃止セラレタル」日英同盟復活ノ可能性ニ付言及シタルカ日英同盟二代リ太平洋ニ於ケル四国條約ノ成レル事情ニ関スル余ノ記憶ニ誤ナキ限り右語句ハ英國ニ取りテモ日本ニ取りテモ公正ニ非ス而シテ米国ニ取りテハ不公正ナリ一九二一年ノ華盛頓會議以前數年間日米戦争ノ場合日英同盟ノ適用ナキコトハ了解

セラレ居タルモ米国ニ於ケル意見ハ公私共ニ該同盟ヲ喜フモノニ非サリシコトハ公然ノ秘密ナリキ然レトモ英國政府ハ之カ為ニ該同盟ヲ廃棄スルノ意思ヲ有セサリキ華盛頓會議ニ於テ日米両国間ニ重大ナル意見ノ相違アリタル場合英國連立内閣ノ企画セル本来ノ政策ハ両国ニ対シ公正ナル友誼ヲ以テ行動シ両国間ノ合意ヲ促進セントスルニアリキ右政策ハ英國ノ公正ナル態度カ却テ米国又ハ日本ニ疑念ヲ抱カシメ其ノ目的ヲ失敗ニ終ラシムルノ危険ヲ伴フコトアルヘキヲ顧慮スル所ナカリシナリ然ルニ一九二一年十一月華盛頓會議開催前英國首席全權「バルフォア」ヲ始メ「ビーチー」提督「サー・ロバート・ボーデン」及其ノ他ノ英帝國代表ハ若シ日本カ同意スルニ於テハ日英同盟ヲ更ニ範囲ノ広キ協定ニ併呑セシムルヲ以テ英帝国ノ見地上妥当トスルノ結論ニ到達セリ

英帝国ノ理由トスル所ハ豪州ノコトハ姑ク之ヲ措クモ加奈太西部諸州ニ於ケル排日感情ハ米国太平洋岸ニ於ケルソレト同様ニ強キコト及若シ華盛頓會議失敗シ日米両国間ニ不祥事発生ノ場合アランカ英帝国重要部分ニ於ケル同情ハ英國ノ同盟国ノ敵国ヲ支持スルコトアルヘシト云フコトニア

（欄外記入1）

9 昭和3年8月8日	在サン・フランシスコ井田(守三)総領事より 田中外務大臣宛
機密公第三七三号 (8月31日接受)	桑港 在桑港
昭和3年8月8日	総領事 井田 守三 (印)
外務大臣男爵 田中 義一殿	地 方 米 人 ト ノ 接 觸 及 排 日 感 情 改 善 ニ 関 スル 件

リキ右見解ハ一九二一年九月初旬日本ノ主要政治家ニ非公式ニ伝達セラレタルコト信スヘキ根拠アリ而シテ會議開催前ニ右見解カ主要英國代表ノ胸裡ニ在リタルコト確実ナリ日本政治家ハ外交問題ノ處理ニ當リ屢其ノ特色トセル才略ヲ以テ日英同盟ノ繼續ハ更ニ広キ一般条約ノ為之ヲ譲ルヘキコトヲ決定シタルモノノ如ク東京ニ於テモ将又華盛頓ニ於テモ右ノ目的ノ為忠実ニ行動セリ彼等ハ華盛頓會議ノ目的ハ海軍軍備ノ制限ヲ基礎トシ太平洋其他ニ於ケル取極ヲ促シ平和ヲ確保スルコトニアルコトヲ了解セリ而シテ彼等ハ平和ヲ希望シタルカ故ニ最終決定ノ為快ヨク其ノ為スヘキ所ヲ貢献セリ

右ノ如キ事情ナルヲ以テ余カ全然誤リ居ラサル限り「米国ノ命ニ依リ」日英同盟ヲ廃止スヘキヤ否ヤノ問題ハ決シテ存在スル所ナカリシナリ寿府會議ノ失敗ハ日英同盟ノ復活ニ至ラシムルコトアルヘシトスル「サゼスチョン」ハ余ノ述ヘタル事情ニ照シ慎重ノ注意ヲ以テ迎フヘキモノナリ右何等御参考迄報告申進ス

右手初トシテ去ル六月二十日「サクラメント」ニ出張シ州

知事「ヤング」氏以下州庁ノ首脳官吏、市長、排日並ニ親日ノ政治家、各英字紙社長、在郷軍人団、婦人団体、農民組合ノ各代表、判検事、弁護士、教育家、宗教家及重ナル実業家ヲ合セ數十名ヲ午餐会ニ招待シ懇談的会合ヲ催シタル處「ヤング」知事ハスル企ハ從来曾テ無カリシ處ナルカ今回貴下カ管内ヲ視察サルルニ際シ第一ニ州庁所在地ニ來リ胸襟ヲ開キ有力官民ト懇談サレタルコトハ日米人ノ感情カ著シク改善サレ居ル折柄誠ニ適切ノ思付キナリトテ大ニ喜ヒ呉レ其他「サクラメント・ビー」紙主筆「マクラッチー」並ニ州上院議員「インマン」其他數多ノ排日家連トモ隔意ナク所見ヲ交換シ且ツ席上知事以下ノ歓迎ニ対シ本官及中島嘱託カ本邦事情ニ関スル演説ヲ試ミタリ

尙ホ「サンオーキン・バレー」ノ主要地タル「スタクトン」及中加地方ノ中心市ナル「フレスノ」ニ於テ本官主催ノ午餐会ヲ開キ「サクラメント」ノ場合ト同様各方面ノ有力米人數十名宛ヲ招待シタル處盛暑中ナルニ不拘殆ント全部出席シ「スタクトン」ニ於テハ東洋貿易促進ノ見地ヨリ別紙第十五号^(省略)ノ通り大見出ノ親日的記事ヲ掲載シ又「フレスノ」ニ於テハ日米親善ノ政治的立場ヨリ本官ノ態度ニ賛成

促進スル上ニ於テモ相当ノ効果アリタルモノト思考スル次第ナリ詳細ハ別紙^(省略)日、英新聞ノ切抜ニ依リ御了承相成タシ次ニ各地ニ於ケル日米人ノ関係ニ付テハ多數米人側官民ト懇談シ其所見ヲ質シタル外邦人側ニ就テモ調査シタル次第ナルカ現在ノ處当管内ノ加州ニ関スル限り排日的事故ハ全ク存在セス相互ノ感情ハ近年見サル程ノ親善ヲ示シ居レリ又排日的土法ハ存在シ居ルモ元來カ地方ノ要求ニ反スルモノナルヲ以テ一応ノ形式ヲ備フル限り官憲ハ極寛大ナル態度ヲ執リ之ヲ摘發スルカ如キコトナク邦人ハ土地会社又ハ第二世ノ名義ヲ使用シ或ハ地主トノ口約ニ依リ從前ト異ル所無ク農業ヲ經營シ居ル次第ナリ而シテ排日カ上述ノ如ク終息ニ近キ迄緩和セルハ主トシテ左記数項ノ事情ニ由来スルモノト考ヘラル

一、邦人入國ノ不能 従来加州人ハ排日家ノ煽動ニ依リ恰モ本邦人カ多數ニ入國スルモノノ如ク誤解シ居リタルモノナルカ移民法ノ制定其他ニ依リ此種ノ疑惑カ一掃サレ之ト同時ニ比律賓人及「メキシコ」人カ多數ニ入込ムコトトナリタルヲ以テ現在ニ於テハ労働組合幹部又ハ職業的政治家ハ此種新移民ノ排斥ヲ重ナル仕事ト為シ居ル次

シ從来排日新聞ニシテ著名ナル「フレスノ・レパブリカン」ノ如キモ別紙第十三号^(省略)ノ通り日米人ノ関係カ現在ノ如ク良好ナルハ曾テ見サル處ナリト冒頭シタル後邦人カ建設的ニシテ信頼スルニ足ルコト米人モ一概ニ外国人嫌ニアラサルコト及在留邦人中ニハ精神並ニ習性ニ於テ日本人ヨリハ米人ニ近キモノカ漸次ニ増加シツツアリトテ暗ニ第二世ノ成長ヲ喜ヘル等全体ヲ通シテ若干ノ留保ハ存スルモ排日紙トシテハ空前ノ親日論ヲ試ミタル次第ナリ

右ノ外「モントレー」「ワッソビル」「サンマテオ」「アラメダ」「ニューキャッスル」「メリスピル」「スウスン」「バイセリヤ」「ユカヤ」其他十余ヶ所ノ在留邦人発起トナリ本官ノ到着ヲ機会ニ日米人ノ懇談的午餐又ハ晚餐会ヲ催シタルカ孰レモ好評ニシテ「モントレー」ニ於テハ別紙第十六号^(省略)ノ通其付近都市ノ有力米人ヲ網羅シテ主客約百名其他ノ地方ニ於テハ平均四、五十名ノ出席者アリタリ尙ホ上述日米人ノ團體的会合ノ外本官ノ個人的ニ訪問シタルモノヲ合スレハ今回ノ管内旅行中ニ於テ主要地ノ有力米人トハ殆ント洩ナク会談シタルモノト概言スルモノト得ヘク之ニ依リ本邦ヲ紹介スル上ニ於テモ將又地方日米人ノ諒解ヲ

(欄外記入2)

二、日米人利害ノ調節 従来邦人ハ重ニ農業労働ニ從事シ居リタル次第ナルカ現在ニ於テハ其区分明瞭トナリ大半ハ家族本位ノ自作農トナリ又一部ハ農園ノ支配人トシテ白人ニ傭ハレ居ルヲ以テ純然タル邦人ノ浮動的労働者ハ著シク減少シ居ル次第ナリ而シテ邦人農家ノ生産物ハ通常由シテ各地市場ニ運搬サルルモノナルヲ以テ邦人農家ノ數カ激増セサル限り白人農業者トノ軋轢起ラサルノミナラス上述ノ米人企業家ニ対シテハ邦人ハ材料ノ供給者トシテ寧ロ彼等ヲ援助シ居ル立場ニ在ルモノナリ

三、在郷軍人ノ態度 欧州戦争後米國ノ除隊軍人ハ政府ノ奨励ニ依リ各地ニ農業ヲ開始シタルカ加州ニ於テ彼等ハ邦人ヲ自己ノ競争者ナリト猜疑シ排日ヲ叫ヒタル次第ナリ然ルニ其後彼等ノ一部ハ定住シ又失敗者ハ農村ヲ去リタル為メ在郷軍人ノ態度モ現在ハ兎ニ角表面上緩和サレ居ルモノナリ

四、邦人ノ土着的傾向 近來在留邦人中ニハ中位ノ財産ヲ有スル者著シク增加シ又彼等カ家族ヲ有スル関係上自然

住宅ノ改善モ行ハレ居ル次第ナルカ別紙第十三号「フレスノ・レバブリカン」紙カ邦人ノ永住の傾向ヲ殊ニ指摘シ居ルハ此等ノ事実ヲ指スモノナル可ク何レニシテモ邦人カ居住地ト密接ノ関係ヲ感スルニ至リタルコトハ米人ニ好感ヲ与ヘ居ルモノナリ

五、農村ノ不景氣 加州ノ農業ハ野菜類ヲ除キタル外大体ニ於テ生産過剩ニシテ米人式ノ殿様農業ニテハ收支相償

ハス唯夕邦人ノ如キ自己ノ労働ヲ基礎トシテ丹精スル場合ニ於テノミ相当ノ純益ヲ挙ケ得ル次第ナリ故ニ米人地主ニシテ邦人ニ土地ヲ売却シ又ハ其小作ヲ希望スル者ハ多数ニ存スル次第ニシテ其結果排日ハ彼等ノ間ニ於テ頗ル不人気ナリ元来排日家ノ宣伝モ地方住民ノ感情ヲ忖度シテ行ハルモノナルヲ以テ近來排日家カ沈黙シ時ニ親日的ノ口吻ヲ洩ス者ヲ生スルニ至リタルハ上述農村ニ於ケル実情ノ一反映ト認メ得ルモノナリ

尚ホ排日ハ多クノ場合人種問題トシテ論議サレ居ルモノナル處本官カ今回地方視察ノ途次從前排日ノ發生シタル諸部落ニ立寄リ日米人双方ヨリ當時ノ事情ヲ詳細ニ質シタル結果ニ見ルニ大抵ハ(+)白人労働者ノ存在セル地方ニ邦人労働

(欄外記入3)

(欄外記入3)

余リ樂觀ニ過ク

排日ノ根本原因ハ人種問題ナリト信ス

河相

10 昭和3年12月12日 在中國國堀(義貴)臨時代理公使より

田中外務大臣宛(電報)

日英同盟復活に対する中国新聞紙の反響について

北　京　　發
本　省　　12月12日後着

第一六九〇号

往電第一六六三号ニ関シ

其ノ後モ日英同盟又ハ協調説流布セラレ支那側ノ感触ヲ極度ニ刺戟シ一般ノ輿論ヲ喚起シ居ル處支那新聞ノ報道ヲ総合スルニ英國側ニ在リテハ十一月六日英國皇帝ノ議会ニ於

ケル「メッセイジ」中ニハ特ニ日本トノ協調ヲ述ヘラレ又「エンバーレン」ハ十一月二日及十二月五日下院ニ於テ

日英両国ノ支那ニ於ケル協調ニ言及シ當地ノ輿論ニ反映シタルモ日英協調ノ報道ハ主トシテ日本側ヨリ伝ヘラルル事

者カ新ニ入込ミ衝突ヲ起シタルコト(+)白人側ニ於テ例へハ農產物共同販売ノ機関ヲ設ケタル場合ニ邦人参加セサリシコト(+)邦人カ農業ニ巧ミニシテ且ツ勤勉ナル為メ白人同業者ノ嫉視ヲ受ケ彼等ノ生活標準ヲ魯カスモノトシテ排斥ヲ蒙リタル等ノ經濟的衝突ニ由来シ居リ其發端ニ於テ人種的色彩ハ頗ル稀薄ナルモノト認メラルル次第ナリ

本信写送付先 在米大使

(欄外記入1)

地方米国人士トノ接触カ排日防止ノ為極メテ適切有効ナル対策タルコトハ從来米大陸西海岸ニ駐在スル各領事ノ均シク觀取スル處ナリシモノ人手ノ關係経費ノ關係上實行ヲ躊躇シ居タル處ナリ今般井田總領事カ初メテ實行セラレタルハ甚我意ヲ得タルモノナリ右ハ独リ在留邦人排日防止ノ対策トシテノミナラス同時ニ進ムテ日本ヲ紹介シ日本ヲ尊敬セシメ日本ニ對スル同情ト接近トヲ齊ス上ニ於テモ甚有効ナル手段ト思ハルpublicityノ一形態トシテ注目ニ値スヘク公信丈ケニテモ御一読願度

(小村欣一情報部長サイン)

河相

(欄外記入2)

一地方的ノ現象ニ不過

実ニ鑑ミ支那紙ハ或ハ日英協調ハ内田伯カ歐米漫遊ノ途次英國當局ニ持懸ケラレタルモノナリトカ或ハ日本海軍部内ニ於テ英國トノ協調ヲ熱望シ居レリトカ將又日本ハ最近英國カ英仏協定不成立及米国海軍拡張ノ為ニ米国ニ對スル感情平カナラサルニ乘シ此ノ機會ニ支那問題ニ付テ英國ト協調シテ其ノ孤立ヲ救ハムトスルモノナリト為シ其ノ間英國ハ其ノ一般対支政策ニ付テハ既ニ一昨年ノ覺書ニ於テ声明シ「エンバーレン」ノ下院ニ於ケル言明モ華府條約ニ基キテ日本ノミナラス米国其ノ他トノ一般協調ヲ意味セルモノナルカ故ニ日本カ孤立ヲ免レムトシテ英國トノ協調ヲ高唱スルモ英國ハヨモヤ日本ノ此ノ陥罪ニ陥ルコトナカルヘク殊ニ日英同盟ノ如キハ支那ニ対スル華府九国條約ニ違反シ決シテ実現スルコトナカルヘシトノ論評ヲ加ヘ日英協調ニ反対シ此ノ種ノ風説ノ打消ニ焦慮シ居ルモノノ如シ

11 昭和5年9月28日 在ニュー・ヨーク澤田(節藏)總領事
より
幣原(喜重郎)外務大臣宛

米国政治学会等にみられる最近の米国の対日
および対中国感情の傾向

昭和五年九月二十八日

在紐育

總領事 澤田 節藏

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「ウイリヤムズタウン」政治学会其他ニ表レタル

米国対日及対支感情最近ノ傾向推移ニ関シ報告ノ件

本年度「ウイリヤムズタウン」政治学会ノ模様ニ関シテハ屢次ノ報告ヲ以テ大要既ニ御了知ニ入レ置キタル通りナルカ本官同地出発ニ際シ同地ニ集レル米国各方面ノ人物ニテ特ニ極東問題ニ興味ヲ有スル者ト面接シテ種々意見ノ交換ヲ試ミ且ツ同学会ニ於テ極東問題ニ関シ為サレタル諸種ノ議論ヲ聴取伝聞シタルカ其ノ間ニ現レタル本邦及支那ニ対スル當國最近ノ感情ノ推移ヲ察知スルニ大体ニ於テ米国人一般ノ対日及対支感情乃至意見ハ近來相当ノ変化ヲ來シ居ルコト明瞭ニシテ華府會議以後漸次好転シ來レル対日好感情一層濃厚トナレルノミナラス進テ我国ニ対スル諒解信頼ノ念ヲ増加シ居ルモノト認メラルニ対シ支那ニ対シテハ一般ニ愛想ヲツカシ実業家其他實際利益ヲ代表スル現実主

存ス

一、対日感情ノ傾向

華府會議以来当國ノ対日感情カ好転シ最近其傾向カ特ニ顯著トナレル事ハ日本カ海軍軍縮問題ハ勿論其他世界平和ノ問題ニ關シ衷心歐米諸強國ト共同ノ行動ニ出テ居ルコト米國ノ排日法通過ニ關シ沈静ニシテ權威アル留保的態度ヲ執リ居ルコト及極東問題ニ付テハ進ンテ自由主義的政策ヲ執ツテ何等帝國主義的野心無キコトヲ実証シ居ルコト等各種ノ原因ニ基ケルコトハ明ナルカ特ニ昨年來本邦往訪ノ當國ノ新聞及雑誌記者団及太平洋會議、萬國工業會議等ニ列席シテ帰来セル當國各方面ノ人士カ帰来後各種ノ機会ニ於テ日本最近ノ進歩ヲ語ルト共ニ日本カ各種ノ國際問題ニ關シ上述ノ如キ公明ナル態度ニ出テ居ルコト等ヲモ吹聴シ特ニ

本春日本カ英米ト相並ンテ遂ニ倫敦海軍條約ヲ達成セシメタルコトハ米国人一般ニ對シ極東ニ於ル日本カ歐米先進國ト協調シテ如何ニ世界ノ平和ニ貢獻スルノ誠意ト實力トヲ有シ居ルカニ付キ相當深キ印象ヲ与ヘタルニ起因スルコトト存ス之ヲ約言スレハ日本カ今日彼等一般ノ政治思想ト併行シ自由主義ト平和主義ヲ実踐敢行シ居ルヲ見テ日米両國ノ政治思想及利益カ種々ナル点ニ於テ類似セルモノアルコトヲ覺リ大イニ其ノ対日感情ヲ好転セシメタルモノトモ見ラルヘク今年「ウイリヤムズタウン」ニ於テ本官ノ接觸シタル各方面ノ人士亦何レモ右ノ点ヲ強調シテ近來ニ於ル米國一般ノ対日感情ハ甚夕好転シ兩國間ニ残サレタルハ唯一ノ問題タル移民法ノ件ニ就テモ全國ヲ通シ著シ空氣ノ改善セラレツツアルコトハ否ムヘカラサル旨ヲ述ヘ日本ノ支那方面ニ於ル政治上並經濟上ノ特種地位ニ就テハ大体之ヲ理解セルモノノ如ク少ク共之ニ関シ斯レ之レノ議論ヲ挾マントスル氣分ニ非サルノミナラス日本ノ対支方策ニ就テハ一般ニ敬意ヲ表シ少クトモ自己ノ態度ヲ決定スルニ先立チ日本ノ態度ヲ承知シ度シトルカ如キ傾向ヲ示シ居レリト認メラレタリ

即チ同政治学会極東問題會議ノ席上ニ於テモ議長タル「ブレークスレー」教授カ支那問題ノ内殊ニ日本カ特殊ノ利害關係ヲ有スル滿州問題又ハ租借地返還問題等何等力争論トナルヘシト懸念セラルルカ如キ問題ニ付テハ成ル可ク議論ヲ惹起セサル様特ニ注意ヲ用ヒ居レリト認メラレタル外日本ノ滿州其他支那ノ諸問題ニ付スル態度ハ米國ノ中南米ニ對スル態度ト同様ナルコトヲ説明シ米國ノ中南米政策ヲ大体ニテモ是認スル我等米人ハ日本ノ対滿政策等モ亦是認セサルヘカラスト言フカ如キ趣旨ヲ暗示シ移民法改正問題ニ付テハ同教授カ本問題ニ付スル米國西海岸地方ノ一般態度カ著シク好転シツツアルコト並ニ同法改正ニ關スル具体運動加州方面ニ起リツツアルコト等ヲ強調シタルカ如キ又「キヤッスル」カ右学会ノ「オープント・コンファレンス」ニテ倫敦條約ニ關スル日本朝野ノ態度ヲ述ヘ日本カ如何ニ日本ノ親善ヲ計ラン為メ誠意努力シ居リ日本ノ対支政策カ米國ノ対支政策ト選ヲ異ニセサル所以等ヲ述ヘタル等ニ對シ聽衆一同贊意ヲ表シテ之ヲ迎ヘタルカ如キハ何レモ其例証ト見ルヲ得ヘク又本官ノ講演ノ如キ既報ノ通り何等新シキ事ヲ述ヘタル次第ニハ非サルモ免ニ角日本ノ対支政策ニ關

スル有權的説明トシテ傾聴シ吳レ「ラウンド・テーブル」ニ於テハ本官ヨリ各種ノ支那問題ニ関スル我方意向ノ説明ヲ聞カンコトヲ執拗ニ要望シ偶々公使館移転問題ニ関スル日本ノ態度ヲ述フルヤ議長ハ之レヲ基礎トシテ議論ヲ進ムル様努メ居リタルカ如キ実ニ日本ノ最近外交政策ニ付单ニ好意ヲ有スルニ止マラス進テ敬意ヲ表シ将来世界ニ於ル日本ノ文化的活動ニ付キ多クノ期待ヲ有スル氣分ニ在リト見受ケラレタリ

如斯当国一般ノ対日感情ノ好転セルコトハ頗ル喜シキ事ナルカ只当市ニ於テ接触スル実業家等トノ会談ヨリ察スルニ当地財業家等ノ一部ハ日本ニ於ル米国ノ投資既ニ約九億ニモ達セル關係上又生糸取引其他實際上ノ利害關係頗ル緊切ナルモノアルカ為ナランカ稍々神經過敏ニ過ル嫌ナキニ非スト考ヘラル節ナキニ非サルモ免ニ角日本現在ノ經濟状態ニ付不安ノ念ヲ抱キ居ルモノト認メラレ隨時當方ニ対シ右ニ付種々質問スルモノアリ其ノ内二、三ノ者ハ結局日本ハ金貨本位制ヲ維持シ得サルヘク一度解禁セル金ノ輸出ヲ再ヒ禁止スル事ナカルヘキカトノ懸念ヲ抱キ本官ノミナラス当市日本商社代表者等ニ質問シ来レルモノアリ之等ニ対

剩生産、亞細亞、南米、歐州諸國ノ政情不安定、露國ノ對歐農業品輸出増加等ニ帰セシムヘキモノト述ヘタル後今回不況ノ米国財界一般ニ及ホシタル程度トシテハ大体生産、小工場使用人數トニ付テ見ルニ一九二八年ノ八、九割程度ナリト為シ今後ノ対策トシテハ要スルニ國民ノ相互協調ニ俟ツ外無シト述ヘ失業問題ニ付テハ從来政府ノ執り來レル方針並ニ其ノ効果ヲ詳述シ今後益々公共事業其ノ他ノ拡張ニ依リ一層之カ救済ノ実ヲ挙クヘク現ニ今議会ニ付シテモ約一億乃至一億五千万弗ノ追加支出ヲ求メントスト述ヘタリ尚農業問題ニ付テハ農業品市価低落実状ヲ挙ケ一方客年夏ノ旱魃被害ニ付テ今後ノ対策ニ付一言シタリ

移民問題

現在ノ失業狀態ニ鑑ミ移民ヲ更ニ制限且選択シ得ル様現行移民法ヲ改正スル必要生アル處応急ノ措置トシテ移民査証ニ制限ヲ加ヘタル結果其ノ數一ヶ月平均二万四千ヨリ七千ニ（墨西哥移民ハ四千ヨリ二百五十二）減少セルカ移民問題ハ全体トシテ再審議ノ要アリ

尚犯罪人密入国者追放規定ヲ嚴重ニスル事必要ナリト述ヘ

シテハ断シテ斯ル懸念ナキ事ヲ説明シ居ルモ右ハ日本經濟界ノ将来ニ關シ何トナク氷解セサル氣分ノ存在ヲ例証スルモノト見ルヲ得ヘク適當ノ機會アル毎ニ之レカ氷解方努力ノ要アリト存セラル

12 昭和5年12月(3) 在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

米国第七一議会に提出のフーヴァー大統領

教書の概要

ワシントン 本省 12月3日後着 発

第三五七号

第七十一議会第三会期昨一日開会セラレ大統領ハ二日議会ニ付シ教書ヲ発シタル處該教書ハ冒頭現下ノ經濟不況及之ニ付スル政府ノ態度ヲ示シ之ニ關連シテ失業対策、移民問題ニ言及シ同期議会ノ立法事項ヲ列挙シタル後国防並ニ外交問題ニ論及シタルモノナルカ要領左ノ如シ

一般經濟ト農業及失業問題

昨今經濟界不況ノ主要原因トシテハ諸外国主要原料品ノ過

海軍省ハ一九三二年ヨリ開始セラルヘキ新建造計画ヲ提出スヘキカ倫敦條約ニ依リ関係國間ニ製艦競争ヲ終息セシメ「パリティー」ノ基礎ヲ確立シ且軍艦ノ數ヲ減スルヲ得タリト述ヘ更ニ伯刺西爾、亞爾然丁、秘露及「ボリビア」新政府承認並ニ「ハイチ」國ニ付スル新政策ニ言及セル後本年内ニ締結セラレタル仲裁裁判及和解條約ハ追テ上院ノ協賛ヲ求ムヘク國際司法裁判所ニ付スル議定書ニ付テハ別二教書ヲ送ルヘシト述ヘタリ

尚右ノ外会期議会ニ於テ提出通過ヲ計リタキ立法事項トシテハ *Muske Shoals* 問題、國境酒密輸入防止勵行法、「アンドカスト」法等ヲ挙ケ尚財政問題ニ付テハ本年財界不況ノ關係ヨリ著シク歲入減ヲ見タル処サリトテ之カ為失業救濟及減債基金ノ為ノ経費支出ハ之ヲ変更シ難キニ顧ミ其ノ他ノ経費ニ關シ出來得ル限り緊縮方針ヲ執ルヘキ旨ヲ述ヘ居レリ